

第 10 回日本訪問歯科医学会 プログラム

「地域を支える —訪問歯科診療の役割—」

■ 2010 年 11 月 21 日 (日)

■ 東京国際フォーラム ホールB5

◎ 特別講演

在宅における専門的口腔ケア

山梨県歯科衛生士会監事 牛山 京子 氏

在宅歯科医科連携の現場から

日本プライマリ・ケア連合学会理事 鈴木 央 氏

◎ 会員講演

「日常生活に輝きを」～歯科からできること～

グリーン歯科 中村 隆 氏

高齢者における義歯装着の意義および対応

—とくに廃用性変化について—

宇川歯科 田邊 美樹子 氏

訪問歯科診療での新しい発見

ますだ歯科 榎田 康宏 氏

訪問診療 6 年生

ほかお歯科クリニック 島津 正隆 氏

訪問歯科診療への i Pad の応用

パール歯科・矯正歯科クリニック健軍 土山 紗智 氏

◎ 特別講演

訪問歯科診療時の医療面接

東京医科歯科大学大学院教授 深山 治久 氏

訪問診療を易しくするためのノウハウ

口腔機能研究会 秋広 良昭 氏

アメリカにおける訪問歯科

ADA 元会長(第 140 代) ユージン・セキグチ 氏

◎ パネル発表

認・認介護患者の訪問診療について

ちば歯科医院 千葉 良人 氏

ST を招いての合同講習会

甲斐歯科医院 眞鍋 美香・和田 香織 氏

“往診を始めて 2 年・私の思うことあれこれ”

丸田歯科医院 丸田 恭嗣 氏

在宅における専門的口腔ケア

山梨県歯科衛生士会

牛山 京子

QOL が重視される時代の中、要介護者は口腔内を快適に美味しく食事ができることを望んでいる。その中で、ノーマライゼーションの理念の基に相手のニーズに合わせた多様な口腔ケアを依頼先に提供していくことであり、訪問歯科診療では治療終了後も快適な食生活を維持するために最期まで専門的口腔ケアを行って歯科医師と一緒に係わる必要がある。

また、皆、それぞれ様々な歴史があり問題も抱え生活している。その中で要介護者や介護者家族の訴えにしっかりと受け止め十分話し合い確認しながら、相手が望んでいる生き方・最期の迎え方を私たちは支援していくことだと考える。

専門的口腔ケアは、口腔清掃で口腔内の感覚機能を整え美味しく食べるための環境を保ち、口腔機能の向上のリハビリテーションを用い、食支援へとつながり、

その結果、最期まで食べる支援が提供できる。また、口で食べることができない方へも、口の清潔と快適、コミュニケーションの確保が出来ることが人間の基本的な権利と考える。

●略歴 牛山 京子（うしやま きょうこ）

1969年 山梨県歯科衛生士学院卒業 1969～1974 歯科医院勤務
1975～1985 市町村保健指導
1986～1995 山梨県歯科医師会甲府支部勤務 在宅訪問歯科診療事業口腔ケア
1995～2003 大阪府立看護大学医療技術短期大学部歯科衛生士科 非常勤講師
1996～現在 市町村保健指導。医療保険・介護保険での口腔ケア。他
1997～現在 東京歯科衛生士専門学校 非常勤講師
1999～現在 広島大学歯学部 非常勤講師
2008～現在 山梨県歯科衛生士専門学校 非常勤講師 他
2001年10月27日 厚生労働大臣表彰

役職

日本有病者歯科医療学会理事 日本歯科心身医学会評議員 山梨県歯科衛生士会監事 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会評議員 認定士 認定委員

主な著書

・在宅の口腔ケア 今日の治療指針 2007年版 医学書院 2007・摂食嚥下リハビリテーション序説 歯科衛生士の立場から 摂食・嚥下リハビリテーション第2版 医歯薬出版 2007・在宅訪問における口腔ケアの実際 初版 単著 医歯薬出版 1998 第2版増補 単著 医歯薬出版 2007・在宅訪問における口腔ケアの実際 在宅における専門的口腔ケア 医療連携による在宅歯科医療 ヒョーロン 2008・口腔ケアの実際 訪問看護師のための在宅感染予防テキスト メディカ出版 2008. 他

在宅歯科医科連携の現場から

日本プライマリ・ケア連合学会理事
一般社団全国在宅療養支援診療所連絡会 副会長
鈴木内科医院 副院長
鈴木央

在宅の臨床現場では、様々な口腔内の問題が存在する。これらの問題に、今までは医科がなんとか解決しようと、乏しい知識の中で試行錯誤しながら関わっていた。しかし、歯科医の協力を得られるようになれば、問題の解決に向けて飛躍的に前進することができる。筆者は現在そう感じている。

筆者の働く東京都大田区では、寝たきり高齢者に歯科的な問題が生じたときには、区あるいは地域包括支援センターに連絡すると、大田区から無料で歯科衛生士が訪問する。その結果歯科医が介入する必要があるれば、歯科医師会と連絡を取り訪問歯科医師が決定する。歯科医師が訪問し、さらに専門的な検査(嚥下内視鏡など)が必要と判断すれば、大学病院の歯科医師が患者宅を訪問することも可能となっている。

また、終末期には様々な歯科的な問題点が出現する。歯の問題のみならず、口腔の乾燥、口腔内のびらんや潰瘍、カンジダなどの感染等である。口から食べることは「生きること」につながり、歯科的なケアの結果、終末期であってもよりよく「生きること」ができる。今後、歯科医科連携が終末期医療の現場にも広がりを見せることも期待をしている。

現状では、医科にとっても、口腔内の問題や摂食嚥下に歯科が関わるとよいという意識が不足していると思われる。歯科にとっても、終末期医療は得意とするところではない。今後お互いが学びあい、新たな関係性を構築していくことが重要と考えられる。

● 略歴 鈴木 央(すずき ひろし)

1987年 昭和大学医学部卒

1999年より鈴木内科医院 副院長：鈴木内科医院院長 鈴木荘一が日本に紹介したホスピス、ターミナル・ケアの概念を引き継ぎプライマリ・ケア、特に在宅緩和ケアを専門としている。

東京医科歯科大学臨床教授、東邦大学員外講師、昭和大学医学部客員講師

著作(共著)：「在宅医療テキスト」 勇美記念財団編、「在宅ケア辞典」 日本在宅ケア学会、

「がんの在宅医療」 中外医学社、「在宅医学」 日本在宅医学会編 メディカルビュー社、

「明日の在宅医療」 中央法規、「在宅で褥瘡に出会ったら」 南山堂(編著)

学会活動等：日本プライマリ・ケア学会理事、日本在宅医学会幹事、

全国在宅療養支援診療所連絡会 副会長、東京プライマリ・ケア研究会副会長、

城南緩和ケア研究会世話人、大田区在宅医療連携研究会会長、大森医師会理事(学術担当)

■ 会員発表

日常生活に輝きを ～歯科からできること～

グリーン歯科
中村 隆

当院も訪問歯科診療を始めて早3年が経過しました。一昨年の日本訪問歯科医学会の発表に続き今回2回目の発表の機会をいただきました。

当院は口腔ケアを中心とした訪問診療の普及を目標とし訪問診療をスタートさせました。おかげさまで訪問の患者様も増え、忙しい日々を過ごさせていただいております。

しかし一方では、治療には積極的に応じてくださる患者様でもその後の口腔ケアの重要性をご理解していただくことができずに治療のみで終了してしまうケースもあり、日々悩むことも多いのが実状です。なんとか現状を打破すべくスタッフと共に患者様と向き合ううちに、私共の課題がおぼろげながら見えてきた気がします。今回は具体的な症例を通してこのテーマについて発表させていただきます。

●略歴 中村 隆 (なかむら たかし)

平成2年3月 日本歯科大学新潟歯学部卒業
平成2年4月 医療法人ニイガタクリニック勤務
平成6年4月 医療法人土屋歯科医院勤務
平成8年5月 グリーン歯科開設 現在に至る
長野医療衛生専門学校講師

高齢者における義歯装着の意義および対応

— とくに廃用性変化について —

宇川歯科医院
田邊 美樹子

老人施設等に伺うと、本来義歯を装着しているはずの口腔内に義歯がない患者さんをかなりの頻度で目にします。その理由としては、「義歯を作ってもらったが合わない」・「気持ち悪い」という一般的な事柄だけでなく、「義歯を作ってもらったことがない」、さらには「義歯というものを知らない」といったことも珍しくありません。義歯を使っていない患者さんは皆、義歯無しで「食事」ができていて、患者さん本人が義歯の必要性を感じてないのが現状です。しかし、義歯を装着しないことによる口腔機能の廃用性変化は、摂食・嚥下障害を引き起こすこともあり、生命にも関わる問題にもなります。単に「食事(咀嚼)をするため」・「見た目を良くするため」だけでなく、この廃用性変化を予防する観点からも、私たちは義歯を使用していない患者さんに快く使用していただけるような義歯を製作し、好結果を得ております。今回はいくつかの症例をあげて、患者さんへの対応、および患者さんの様々な反応と今後の展望について報告したいと思います。

●略歴 田邊 美樹子 (たなべ みきこ)

平成7年3月 大阪大学歯学部 卒業

平成7年4月～平成8年3月 大阪大学歯学部口腔治療学講座 所属

平成20年8月～現在 医療法人 活生会 筒井歯科医院 勤務

平成21年4月～現在 宇川歯科医院 勤務

AEAJ (社団法人日本アロマ環境協会) 認定 アロマセラピーインストラクター
ドライマウス研究会認定医

■ 会員発表

訪問歯科診療での新しい発見

ますだ歯科
榊田 康宏

『喜び・楽しみ・そして健康』 私たちはこの標題をテーマに日々訪問歯科診療に取り組んでおります。訪問歯科診療は今まで日本を支えてくださった方への恩返しの一環のひとつです。

そんな職業に携われて、私たちは本当に幸せです。訪問歯科診療は一般外来とは違い、単なる治療や予防だけでなく、健康状態や生活環境、家族構成、運動量、そして居宅の方でしたら、デイサービスの利用回数まで把握した上で診療に取り組むべきであると私たちは考えております。

今回の発表では、診療上得た興味深い調査結果のデータと私たちの医院における新しい取り組みを御紹介させていただきます。

●略歴 榊田 康宏（ますだ やすひろ）

平成 12 年 3 月 朝日大学歯学部 卒業
平成 13 年 4 月 メガ デンタルオフィス 勤務
平成 14 年 4 月 スマイル歯科クリニック 併勤
平成 16 年 3 月 スマイル歯科クリニック 退職
平成 15 年 4 月 セントラル矯正歯科クリニック 併勤
平成 16 年 11 月 セントラル矯正歯科クリニック 退職
平成 16 年 12 月 メガ デンタルオフィス 退職
平成 17 年 1 月 ますだ歯科 開設 現在に至る

■ 会員発表

訪問歯科診療6年生

医療法人恵裕会 ほかお歯科クリニック
島津 正隆

私がほかお歯科クリニックで訪問歯科診療を受け持つようになって、はや6年目となりました。最初の頃の訪問診療の事を思い起こしますと、診察室以外の場所に於いてはまず診察のポジションや機材のレイアウトから検討する必要がありました。また、外来ではお見えになる方に比べて様々に困難な患者さんに直面し、この状況でどうやって診察したら良いのかと大変戸惑ったものでした。

ただ、この仕事を5年間（歯学部1年生が、病院実習で実際に診察を始めるまでに成長する程の期間）続けるうちに、ある程度の経験と慣れを身につける事はできたのではないかと勝手に自負しております。

現在もいまだ手探り状態とはいえ、最近では、ただ日々の診察に追われるだけでなく、今以上に訪問歯科診療に上手く運営していくにはどんな工夫をしたらいいだろう、どんなシステムでやっていけばいいだろう、などという事も少しずつ考えるようになって参りました。私たちの歯科医院がこの5年間スタッフ一丸で創り上げてきた私たちの訪問歯科診療の現状と、今後の展望などをご紹介しますと思います。

●略歴 島津 正隆（しまづ まさたか）

生年月日 昭和49年4月19日

平成 5年 4月 九州歯科大学 入学

平成11年 3月 九州歯科大学 卒業

職歴

平成11年 4月 九州歯科大学臨床研修歯科医

平成12年 3月 九州歯科大学臨床研修歯科医 終了

平成12年 5月 おおくら歯科医院 勤務

平成15年12月 おおくら歯科医院 退職

平成16年 2月 スマイルラインデンタルクリニック 勤務

平成16年 7月 スマイルラインデンタルクリニック 退職

平成16年 8月 らいおん歯科クリニック 勤務

平成17年 3月 らいおん歯科クリニック 退職

平成17年 3月 医療法人 恵裕会 勤務

訪問診療部長として現在に至る

■ 会員発表

訪問歯科診療への iPad の応用

パール歯科・矯正歯科クリニック 健軍 副院長
土山 紗智

当院で訪問歯科診療に携わるようになり、3年が経ちました。日々診療を行う中で、院内で行う治療説明と訪問診療でのそれとのギャップに悩まされてきました。院内ではさまざまな説明ツールを生かし、目で見て分かる説明が出来るのに、訪問診療ではそれがなかなか叶わない、そういった状態でした。

そんな中で今年の8月、iPadが当院の訪問診療に導入されることになりました。その手軽さとさまざまな機能を生かして目で見て分かる説明ができればと当院なりに試行錯誤し、写真や動画を取り込み、説明ツールとして現在活用しています。大きな画面を見ながらの説明は、以前よりも患者さまの理解が得られやすくなったように思います。

また、予約管理もでき、荷物の量も軽減しました。iPad が導入されてまだ3か月ほどではありますが、当院での訪問診療における iPad の活用法についてご紹介したいと思います。

●略歴 土山 紗智（つちやま さちえ）

2001年 九州歯科大学卒業
九州歯科大学病院第二口腔外科 勤務
2002年 小倉南歯科医院 勤務
2003年 産業医科大学歯科口腔外科 勤務
2007年 パール歯科・矯正歯科クリニック 勤務

訪問歯科診療時の医療面接

東京医科歯科大学大学院 麻酔・生体管理学分野

深山 治久

歯科診療中に患者さんの容体が急変することがあります。特に訪問歯科診療ではその可能性が高まります。なぜなら、訪問診療は何かの理由、多くは疾患のために歯科診療所に来られない方を対象にしているからです。そのような事態に陥った時には、場合によってAEDを使った救急（心肺）蘇生を速やかに始めなければなりません。ところが、話には聞いたり実習で学んだりしたのですが、実際の患者さんに本当にできるでしょうか？

そこで、今回は救急（心肺）蘇生をやらなくて済むための医療面接、すなわち、治療前に何の話をどのように聞くか、患者さんのどこを観察するか、さらに、何をすれば良いかを具体的にお話しします。それらの結果を評価して、ここに気をつけて治療を始める、麻酔はこのように使う、治療中にこのようになったら中断する、このような患者さんには処置を控えた方が安全、といったことを提案します。緊急事態、事故が起こってからでは遅すぎます。患者さんを安心させ、安全に治療をするだけでなく、私たち自身も安心して明日からの訪問診療に取り組めるような話をいたします。

●略歴 深山 治久（ふかやま はるひさ）

- 1981年3月 東京医科歯科大学 歯学部 歯学科卒業
- 1985年3月 東京医科歯科大学大学院 歯学研究科修了（歯科麻酔学専攻）
- 1986年4月 東京医科歯科大学 歯学部附属病院 助手（歯科麻酔科）
- 1989年3月 米国カリフォルニア大学ロスアンゼルス校（UCLA）リサーチフェロ
ー
- 2000年4月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 麻酔・生体管理学
助教授
- 2004年4月 鶴見大学 歯学部 歯科麻酔学講座教授
- 2010年4月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 麻酔・生体管理学
教授

日本歯科麻酔学会専門医，日本老年歯科医学会指導医，日本障害者歯科学会認定医

訪問歯科診療を易しくするためのノウハウ

口腔機能研究会
秋広 良昭

健常人の歯科医療の目的と訪問歯科歯科医療の目的には求められていることに、違いがあることを認識しつつ、訪問歯科診療を取り巻く人々は、介護を受けている人が何を望んでいるのか、なぜ、介護を受けるようになったのか。なぜ訪問診療を受けるようになったのか。受ける側の気持ちや、提供する側に伝わり、医療サービスに結びついたとき、本当の信頼関係が育まれ、本当の医療が始まります。「私たちは歯科医師」は摂食機能療法というリハビリテーションによって広がった歯科領域を最大限に活かし、「大切な命の可能性」を広げていきましょう。

訪問歯科診療未経験の先生方には、漠然としたイメージとして、訪問＝寝たきりゆえに、一般歯科診療中の最中に「不慮の事故」が起き、面倒な事態に巻き込まれてしまうのではないかの不安、あるいは訪問歯科診療＝一般歯科診療の一分野という考え方、また、局所症状の惨状から、その部位の治療は局所リハビリとして手を付けるか、あるいはそのことを無視して、強引に咀嚼回復に纏わる治療をしようとするかどちらかになりがちです。

訪問歯科診療の目的は口腔機能の改善が可能となった後に一般歯科診療の延長を考えたプランを考えてあげることで、患者さんのQOLの回復を第1義と考えて下さい。

●略歴 秋広 良昭（あきひろ よしあき）

1968年 東京歯科大学卒業

1972年 東京歯科大学大学院終了

1975年～2018年 東京都昭島市に秋広歯科医院開業

1983年～2014年 東京歯科大学非常勤講師

1986年 労働衛生コンサルタント

1998年 パタカラを開発

■ 特別講演

アメリカ式 訪問歯科

ADA 元会長 第 140 代
ユージン・セキグチ

歯科医療は、口腔における健康管理です。多くの国では、歯科医療は決められた場所で私費診療で提供されています。移動し患者さんへ歯科医療を提供する、それが訪問歯科です。日本とアメリカでは、訪問歯科が行われています。日本とアメリカの訪問歯科において、多くの類似点が見受けられます。また、相違点もあります。なぜか？

●略歴 Eugene Sekiguchi (ユージン・セキグチ)

- ・ 米国カリフォルニア州モンテレーパーク開業医
- ・ カリフォルニア歯科医師会暫定常任理事
- ・ American Dental Association (アメリカ歯科医師会) 140 代会長歴任
- ・ 南カリフォルニア大学臨床教授
- ・ 南カリフォルニア大学 International Professional and Legislative Affairs 副学部長
- ・ ADA (アメリカ歯科医師会) における当会組織体制および予算処理関連主要委員、代表歴
- ・ 元カリフォルニア歯科医師会会長
- ・ サン・ガブリエルバレー歯科協会会長
- ・ American and International Colleges of Dentistry フェローおよびピエールフ
- ・ シャールアカデミー特別会員
- ・ 南カリフォルニア大学ロスアンゼルス校より Doctor of Dental Surgery (DDS) 及 Master of Science in electrical engineering (MSEE 電気工学修士) 授与
- ・ カリフォルニア大学パークレー校より Bachelor of Science in electrical engineering (BSEE 電気工学理学士) 授与
- ・ ロスアンゼルス地区アメリカ陸軍医療/歯科医療顧問
- ・ ロスアンゼルス口腔ヘルス財団諮問委員会委員
- ・ LPGA (全米女子ゴルフ協会) メディカル委員会委員

*Claire (クレア) 夫人と共に La Canada Flintridge (カリフォルニア) 在住。

3 人の子息のうちスティーブンはコンピュータ技術者。ケビンとジルは歯科医として共に診療している

認・認介護患者の訪問診療について

ちば歯科医院
院長 千葉良人
歯科衛生士 内かおり

今日、認知症患者の家庭環境の中で、在宅介護で見られる親子の介護から、夫婦で互いに介護しあう家庭が増えてきており、その中でも認知症同士の認・認介護患者が増えてきている。

義歯装着後の老人の習性として、義歯を外したときにティッシュに包む癖がある。認・認介護患者の場合、その後、そのティッシュを捨ててしまうことや、何処か思いもよらない場所にしまいこんでしまい、忘れて紛失してしまうことが二年間に七例も見られた。再製作するには、義歯装着後六ヶ月以内の場合は、保険診療の対象外であり、自費診療に移行するが、経済的に困難な場合が多い。対応した指導をしてもなかなか効果がない。

その対策には、やはり原点に戻り、介護事業所と連携をし、家族、医院スタッフ、ヘルパー、そしてケアマネージャーも含めて、日常的に繰り返し指導することが大切であった。

指導内容は、ブラッシング方法、薬の服用の仕方、義歯装着時の注意点、着脱の仕方、保管の仕方、特に義歯を着脱し、うがいと義歯の洗浄をした後ケースに入れて一定の場所に保管する等である。

認知症患者には、目に付くところに指導の内容を大きな文字に書いて貼り付けておくのが、特に効果的であった。

●略歴 千葉 良人（ちば りょうと）

昭和48年 東北大学歯学部卒業
秋田大学医学部歯科口腔外科 文部教官助手
昭和50年 秋田大学医学部耳鼻咽喉科にて研修
昭和53年 ちば歯科医院開業（仙台市）
平成20年 日本訪問歯科協会会員

■ パネル講演

ST を招いての合同講習会

甲斐歯科医院
眞鍋 香織
和田 美香

甲斐歯科医院では、言語聴覚士を招いて口腔ケアの合同講習会を開催いたしました。

言語聴覚士(ST)は、病気などによって言葉の障害をもつ人たちのリハビリの専門家です。音声機能、言語機能、聴覚に障害を持つ人の機能向上のためのリハビリ指導をしております。そんな言語聴覚士と、訪問診療の現場へ同行し、患者様の口腔機能を含めたリハビリの講習会の成果をご報告致します。

● 略歴 眞鍋 美香 (まなべ みか)

1991年 福山歯科衛生士専門学校卒業
1991年 きだ歯科医院勤務
2009年 甲斐歯科医院勤務

● 略歴 和田 香織 (わだ かおり)

1995年3月 福山歯科衛生士専門学校卒業
1995年4月 うえはら歯科医院勤務
2007年9月 甲斐歯科医院勤務

■ パネル講演

往診を始めて2年・私の思うことあれこれ

丸田歯科医院 院長
社会福祉法人英愛会 理事長
丸田 恭嗣

私は、往診を本格的に始めて2年が過ぎました。その中で一番思うことは「連携」ということです。特にケアマネージャーの技量如何によって事の運びが全くことなります。患者様の主訴内容によっては、急を要することもあります。また、大型施設には協力歯科医療機関が設定されていますが、居宅の患者様が急に施設に入所された場合、その協力歯科医院があるのでとういことで往診を断られるケースが多々あります。しかも、1週間たっても治療は行われずそのままということもあります。そこには、ケアマネさんの連携術、協力歯科医療機関の技量がネックになると思われます。

ケアマネージャー様方への口腔ケアに関する教育を強化し、また協力歯科医療機関のあり方を考えていただければ、老人歯科医療はかなりの向上を思うのですが・・・今回、もともとその協力歯科医療機関ではありませんが、SOS様のアプローチにより、某介護老人福祉施設へ介入し、検診・勉強会・治療・口腔ケアを行い、好結果を得ることが出来ましたので、ご報告いたします。

●略歴 丸田 恭嗣 (まるた きょうじ)

1981年 城西歯科(現・明海大学歯学部) 大学卒
1981年 今井歯科医院勤務
1984年 鹿児島大学小児歯科学講座入局
1985年 丸田歯科医院開設
2002年 知的障害者通所授産施設「セルフ鹿児島」開設・施設長就任
2008年 丸田歯科院長再就任